OMIYA MAIL NEWS
JR East Transport Service Workers Union
JR東日本輸送サービス労働組合
JTSU-E OMIYA 大宮地方本部
2025.05.19
No. 045
HOMEPAGE TWITTER

情報漏洩を管理者が把握していない？
これを『隠蔽』と言わず何と言うのか！

4月21日に開催された申4号「企業ガバナンス崩壊！健全で風通しの良い職場風土の構築を求める緊急申し入れ」交渉において、平成30年12月14日に開催された『小山ブロック会議』の議事録が、約6年間に渡り一部の職場にて閲覧可能な状態で公開されていた事を指摘しました。翌日には当該のデータは削除され、検索・閲覧ができないようになりましたが、**情報漏洩の事象が発生した事や原因の特定、再発防止に向けた対策など、社員への周知や教育はいまだにされていません。**

閲覧が可能であった職場の管理者へ情報漏洩の事実を把握しているか確認したところ「そのような事象は把握していない」と返答がありました。

また「旧さいたま車掌区での件があり、古いフォルダーについては処分し管理者内で周知は行っており、全社員に向けた周知は現時点では行う予定は無い」とも述べています。

これまで取り扱い誤りなど発生させてしまった際には、会社は社員へ向けて『速やかな正しい報告』を行うように指導を受けています。

これは併発事故の防止、原因究明と再発防止に向けた対策、関係機関やマスコミ・関係省庁への情報提供を行う事を目的として実施されています。

しかし、現在の大宮支社の姿勢は『不祥事の事実を隠し、再発防止に向き合う事なく、時間が経過し事象を忘れるのを待ち続けている』ように見えてなりません。

社員へ向けて行なっている指導と真逆の行動を行なっており、このような説得力に欠ける姿勢が蔓延すれば、事象を隠す職場風土が醸成されてしまいます。何よりも命を預かり、安全な運行を提供する公共交通事業者としての信頼が揺らいでしまう事になりかねません。

一体、信濃川発電所での不正取水問題から何を学んだのですか？

情報漏洩の事実を社員へ周知するべきだ！